

Ⅱ．現代社会学部

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

現代社会学部では「21 世紀を支える、国際的センスを持つとともに地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成すること」を、理念・目標に掲げる。このような理念・目標を踏まえて、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に、卒業を認定する。

1. 人間性の向上（DP1）

国際化・情報化が進む現代社会に必要な教養や基礎的能力を身につけ、自分の力で考えて行動することができる。

2. 専門性の向上（DP2）

2-1. 国際人としての能力（DP2-1）

外国語の学習や国内外におけるフィールドワーク・ボランティア活動・留学等で語学力や国際感覚を高め、その能力を国内外の交流で発揮することができる。

2-2. スペシャリストとしての能力（DP2-2）

観光・環境デザイン・経営情報・英語国際キャリアの各専攻で修得した専門的知識や技能・資格を活用し、国際社会や地域社会の様々な現代的課題の解決に自分から進んで取り組むことができる。

3. 社会性の向上（DP3）

地域社会や企業等の発展に貢献するために、他の人々と協調しながら目標の実現に向けて自分から進んで行動することができる。

1 学部の教育理念と目標

グローバル化が進む今日、世界と日本だけでなく、世界と地域の直接的な関係が深まっています。一方で、多様な環境を持つ各地域は、それぞれ独自のあり方が求められています。このグローバル化とローカリゼーションが共生する「グローバル社会」の中にあって、「21 世紀を支える国際的感覚を持つと同時に、地域に精通し時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことが現代社会学部の教育目標です。

2 学部のカリキュラム・ポリシー

富山国際大学の基本理念である「共存・共生の精神」に基づき、学部の教育目標を達成するために、次のカリキュラム・ポリシーにより教育課程を編成しています。また、学習成果を上げるための教育方法と、学習成果の評価方法を、以下に掲げます。

1. 教育内容

現代社会学部の教育課程編成・実施の方針は、在学中に基礎的・専門的な能力の向上を図るため教育課程を教養教育と専門教育により構成し、各教育課程には教育目標を達成するための科目を設定する。各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかはシラバスで明示する。

(1) 教養科目（「教養科目」「教養科目（基盤）」）および「専門科目」は、それぞれのカテゴリで必要な必修科目、選択科目の単位数を指定する。

① 教養科目：大学生として必要な教養を身につけるために、教養科目を置く。教養科目は「人間理解科目」「社会理解科目」「自然理解科目」「領域を超えて学ぶ科目」「外国語科目」「日本語科目」「情報基礎科目」「キャリア・実務科目」及び「教養演習科目」で構成される。

② 教養科目（基盤）：現代社会に関する基本的な知識を学ぶために教養科目（基盤）を置く。教養科目（基盤）は、「現代社会基礎科目」「地域づくり科目」「国際交流科目」「情報科目」から構成される。

③ 専門科目：各専攻の専門分野で活躍できる能力を身につけるため、各専攻の教育目標に応じて専門科目を置く。専門科目は、「観光専攻科目」「環境デザイン専攻科目」「経営情報専攻科目」「英語国際キャリア専攻科目」から構成される。

(2) 就職に必要なコミュニケーション能力ならびに社会で活躍できる能力を身につけるための科目として、「キャリア・実務科目」を置く。

(3) 各専攻に開講する科目のうち課題解決能力と実践力を育成するための科目として専門演習科目を置き、特に専攻の総合的な能力を高める「専攻実習Ⅰ」（英語国際キャリア専攻は除く）「専門演習Ⅰa、Ⅰb」「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」を必修とする。

(4) 専攻分野だけでなく、関連分野における幅広い知識も身につけるため、各学生が選んだ専攻以外の専攻科目も、「概論」をはじめとする一部の科目を必修とする。

(5) 国際社会で活躍できる、外国語コミュニケーション能力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム）を置く。

(6) 地域社会で活躍できるリーダーとなり得る、課題解決力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（地域創生人材育成プログラム）を置く。

2. 教育方法

現代社会学部では、各授業科目において、確実な理解を図り学習成果を上げるための教育方法として、一般的な知識教授型の授業方法以外に、以下の5つの中で各授業科目において可能な方法を積極的に実践する。

(1) 対話型授業

教員が学生に一方的に講義するのではなく、学生も参加し、学生と教員が双方向的に対話や問答をしながら、理解を深める。

(2) 演習・反復型授業

演習課題、具体的な事例についての考察、重要な事項について反復学習をすることにより、確実な理解を図る。

(3) グループ学習

学生同士が複数のグループに分かれ、設定した課題についてグループの構成員が共同で解決に当たる。

(4) 地域フィールドワーク

地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、理解を深める。

(5) 授業外学習指導や自主学習

授業外で教員が個別に学習指導したり、学習課題や調査課題などを与えたり、学生の自主的な学習を促す。

3 4つの専攻と専攻所属の決定

現代社会学部では 21 世紀の社会のなかで重要な役割が期待される「観光」「環境デザイン」「経営情報」「英語国際キャリア」の4分野の専攻を設けています。どの専攻に所属するかは、1年次から2年次に進級する際に学生自身に決めてもらいます。1年次の学びのなかで、自分が2年次以降にどの専攻で学び、どのような専門知識を得ていくのかをよく考え、専攻を決めてください。

4 単位計算の特例

海外研修を伴う授業や、教室での講義と学外での実習とを組み合わせた授業では、単位計算の方法が通常と異なることがありますので、授業担当教員の説明に従ってください。

5 進級要件・卒業要件

現代社会学部では、2年次から3年次への進級要件を設けています。2年次で下記の進級要件を満たさないと、3年次に進級できません。また、卒業要件を1単位でも満たしていないと卒業できません。進級要件、卒業要件についてよく理解したうえで、履修計画を立ててください。

5-1. 進級要件

- (1) 2年次までに、必修科目と選択科目を合わせて 62 単位以上 修得することが必要です。このうち、必修科目（専攻必修科目を含む）を 40 単位以上 を修得することが必要となります。
- (2) 2年次後期から3年次前期にまたがって海外留学した学生は、帰国後に留学先で修得した科目の単位認定後、進級の可否を判断します。海外留学前に既に進級要件を満たしている場合は、留学先で修得した科目の単位認定を待たずに進級の可否を判断します。

進級要件

必修科目＋選択科目	62 単位以上
必修科目（専攻必修科目含む）	40 単位以上

II. 現代社会学部

5-2. 卒業要件

卒業には、科目区分毎の必要な単位数を修得し、124 単位以上修得することが必要です。必要な単位数は下の表のとおりです。

卒業に必要な単位数

区分		必修科目	選択必修科目	必修科目の詳細	必修科目	選択科目		必修・選択計	備考		
教養科目	人間理解科目	2		日本語表現技法(2)	4	8以上		34以上	42以上		
	社会理解科目	2		情報科学概論(2)							
	自然理解科目	0									
	領域を超えて学ぶ科目	0									
	外国語科目	4	8	英語Ⅰ(2)、英語Ⅱ(2)、 第二外国語(8)	22					8	
	情報基礎科目	4		ビジネス情報演習Ⅰ(2)、 ビジネス情報演習Ⅱ(2)							
	キャリア・実務科目	6		キャリアデザイン講座(2)、 キャリア育成講座(2)、 キャリア支援講座(2)							
	教養演習科目	8		教養演習Ⅰ(4)、教養演習Ⅱ(4)							
教養科目(基盤)	現代社会基礎科目	4		現代社会概論(2)、 環境・社会・企業と倫理(2)	8	12以上*		20以上	20以上 *他学部、他大学で履修した科目を含めることも可能		
	地域づくり科目	2		地域づくり実習(2)							
	国際交流科目	2		国際関係論(2)							
	情報科目	0									
専門科目	所属専攻科目	22		専攻必修(8)、専攻実習Ⅰ(2)、 専門演習Ⅰ(4)、専門演習Ⅱ(8)	22	22以上	14以上	62以上	専門科目62単位のうち、所属専攻の専攻科目を44単位、他専攻概論科目を4単位履修する。他に、所属専攻の専攻科目又は他専攻科目(実習、専門演習は除く)から14単位以上履修する。		
	他専攻科目		4	他専攻の概論2科目(2×2)	4						
合計		56	12		68	56以上		124以上			

●教養科目

- ・必修科目（教養演習含む）の単位数は、34 単位です。
- ・選択科目の単位数は、8 単位以上必要です。
- ・教養科目では、必修科目+選択科目で合計 42 単位以上必要です。

なお、＜外国語科目＞＜日本語科目＞において卒業に必要な単位数を超えて修得した語学科目の単位は、卒業に必要な単位としては認めません。

留学生は、＜外国語科目＞12 単位分を＜日本語科目＞12 単位で充足します。

●教養科目（基盤）

- ・必修科目の単位数は、8 単位必要です。
- ・選択科目の単位数は、12 単位以上必要です。
- ・他学部、他大学で修得した単位に関しては、教養科目（基盤）に含めることが可能です。
- ・必修科目と選択科目で合計 20 単位以上必要です。

●専門科目

(1) 所属専攻科目（観光専攻、環境デザイン専攻、経営情報専攻）

- ① 22 単位の専攻必修科目（概論、専攻必修科目、専攻実習、専門演習 I、専門演習 II）、22 単位以上の所属専攻の選択科目、他専攻の概論 4 単位、合計 48 単位が必要です。
- ② 残り 14 単位に関しては、所属専攻の専攻科目または他専攻科目（実習、専門演習は除く）から 14 単位以上履修します。

II. 現代社会学部

(2) 所属専攻科目（英語国際キャリア専攻）

- ① 34 単位の専攻必修科目（概論、専攻必修科目、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ）、10 単位以上の所属専攻の選択科目、他専攻の概論 4 単位、合計 48 単位が必要です。
- ② 残り 14 単位に関しては、所属専攻の専攻科目または他専攻科目（実習、専門演習は除く）から 14 単位以上履修します。

●その他留意事項

- ① 修得済の単位数が 124 単位以上であっても、科目区分毎の必要な単位数を下回っている場合や、必修科目すべてを修得できなかった場合は、卒業はできません。
- ② 3 年次終了時点で 80 単位以上修得していないと原則「卒業見込証明書」は発行できません。
- ③ 「教養科目」、「教養科目（基盤）」、「専門科目」の各必要な単位数を超えて履修した単位数は、卒業に必要な単位数に算入できません。
- ④ 就職活動時等に発行する成績証明書には、総取得単位数が記載されます。卒業に必要な単位数は 124 単位以上ですが、高い知性と広い教養を身につけるため 124 単位以上の単位を修得することを推奨しています。

6 履修登録

6-1. 履修単位数

- (1) 1 学期あたりの履修上限単位数は、22 単位です。以下の科目は、22 単位の履修上限単位数に含まれません。前年度までに不合格となった必修科目を再履修する場合も、履修上限単位数に含まれません。

履修上限単位数に含まれない科目

必修のキャリア・実務科目	キャリアデザイン講座
	キャリア育成講座
	キャリア支援講座
教養演習科目	教養演習Ⅰ
	教養演習Ⅱ
集中講義	集中講義（インターンシップ含む）
前年度までに不合格となった必修科目	

- (2) 3 年次編入学生やインターナショナルプログラム参加者等の中で、履修や卒業に支障が生じる可能性がある場合は、教授会での審議を経て制限を超える単位の履修を認めることがあります。

6-2. 履修登録にあたっての注意

●小文字の a、b がついている科目

- ・「教養演習Ⅰ・a」「教養演習Ⅰ・b」のように、授業科目名に小文字の a、b がついている場合は、a は前期に、b は後期にそれぞれ 15 週ずつ開講されます。a、b の両方の科目を履修する必要があります。
- ・秋季入学(10月入学)の学生や、後期から復学した学生等は、a、b の受講順（履修登録順）が逆になるなど変則的になる場合があります。ゼミ担当教員の指示に従ってください。

●クラス指定のある科目の登録に関する注意

- ・クラス指定がある科目は、指定された曜日・時限に登録してください。

7 科目履修のルール

教育課程や履修できる科目は入学年度によって一部が異なります。本書は当該入学年度の学生にのみ適用されます。このルールは原則として卒業まで適用されます。休学、留学等で自分の在籍年次が変わった場合も、このルールが適用されます。

II. 現代社会学部

7-1. 必修科目

●必修科目の履修に関する注意

- ・必修科目は、学生全員が卒業までに単位を修得しなければなりません。
- ・必修科目は定められた年次に受講してください。履修した年次に不合格となった場合は、翌年次に再び履修してください。
- ・必修科目のうち、授業時間割の科目名に X、Y、A、B 等アルファベットの大文字がついている場合はクラス指定があり、各自が受講する曜日・時限・教室があらかじめ決められています。必ず指定のクラスで受講してください。
- ・各学期の授業時間割を考える際には、必修科目を最優先で組み込み、それから空いている時限に選択科目を組み込みましょう。

●各区分の必修科目

必修となっている「教養科目」、「教養科目（基盤）」、「専門科目（専攻科目）」は以下のとおりです。

必修科目一覧表

区分		科目名	配当年次と修得できる単位数
教養科目	人間理解科目	日本語表現技法	1 年次、2 単位
	社会理解科目	情報科学概論	1 年次、2 単位
	外国語科目	★英語 I・II	1 年次、各 2 単位（計 4 単位）
		★中国語 I・II	1 年次、各 4 単位（計 8 単位） （それぞれの同一言語で 8 単位必要）
		★韓国語 I・II	
		★ロシア語 I・II	
		★フランス語 I・II	
		★Intensive English I・II	
	情報基礎科目	ビジネス情報演習 I・II	1 年次、各 2 単位（計 4 単位）
	キャリア科目・実務科目	キャリア・デザイン講座 a・b	1 年次、各 1 単位（計 2 単位）
		キャリア育成講座	2 年次、2 単位
		キャリア支援講座 a・b	3 年次、各 1 単位（計 2 単位）
教養科目（基盤）	現代社会基礎科目	現代社会概論	1 年次、2 単位
		環境・社会・企業と倫理	3 年次、2 単位
	地域づくり科目	地域づくり実習	1 年次、2 単位
	国際交流科目	国際関係論	2 年次、2 単位
専門科目（専攻科目）	所属する専攻の科目	所属専攻の概論	1 年次、2 単位
		所属専攻の実習 （英語国際キャリア専攻除く）	3 年次、2 単位
		専門演習 I a・b	3 年次、各 2 単位（計 4 単位）
		専門演習 II（卒業研究含む）	4 年次、8 単位
		専攻で必修と定めた専攻科目	2 年次、各 2 単位（計 6 単位）
	所属する専攻以外の専攻科目	学生が所属する専攻以外の概論	英語国際キャリア専攻 （2～3 年次、7 科目 20 単位）
			1 年次、各 2 単位（計 4 単位）

※留学生は、★の科目のかわりに選択必修の日本語科目から 12 単位必修

※英語国際キャリア専攻の学生は、Intensive English I・II は必修

※同一言語の I、II を履修すること。

※英語国際キャリア専攻以外の学生で英語圏への留学等のために英語力を高めたい学生は、「Intensive English I・II」を履修できます。

ただし、履修を希望する場合は前期開始前に実施するプレースメント・テストで基準以上の点数をとる必要があります。

Ⅱ. 現代社会学部

＜専門科目の「所属する専攻以外の専攻科目」の履修例＞

例：環境デザイン専攻の学生の場合

「観光概論」「経営情報概論」「国際キャリア概論」の中から2科目4単位を履修。

※編入学生については、所属する専攻以外の概論2科目は必修ではありません。

詳細は別途配布の「3年次編入学生の単位認定について」を確認してください。

7-2. 選択科目

P29「現代社会学部教育課程表」の単位数欄の「選択」に単位数が記されている科目が選択科目です。「教養科目」では8単位以上、「教養科目（基盤）」から12単位以上、「所属専門科目」から22単位以上、「所属専門科目または所属専門科目以外の専門科目」から14単位以上の修得が必要です。

8 認定による単位の修得

以下は「単位が認定される科目」です。評価は「P」と表記されます。単位の認定を受けるためには、以下の要件を満たすことが必要です。なお、単位認定科目は、GPAの算出対象ではありません。

8-1. 「ビジネス情報演習Ⅰ・Ⅱ」の認定について

(1) 以下の資格のいずれか、あるいは同等以上の資格を既に取得している場合は、「ビジネス情報演習Ⅰ」の単位を認定し、授業の出席を免除します。

- ・コンピュータサービス技能評価試験（CS 検定）3級ワープロ技士
- ・日商PC 検定試験（文書作成）3級
- ・マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）Word 一般レベル
- ・全経文書処理能力検定試験（ワープロ）3級
- ・ICT プロフィエンス検定試験（P 検）3級（ただしワープロB以上）
- ・全商ビジネス文書実務検定試験3級（速度部門を除く）

(2) 以下の資格のいずれか、あるいは同等以上の資格を既に取得している場合は、「ビジネス情報演習Ⅱ」の単位を認定し、授業の出席を免除します。

- ・コンピュータサービス技能評価試験（CS 検定）3級表計算技士
- ・日商PC 検定試験（データ活用）3級
- ・マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）Excel 一般レベル
- ・全商情報処理検定試験3級
- ・ICT プロフィエンス検定試験（P 検）3級（ただし表計算B以上）
- ・全経文書処理能力検定試験（表計算）3級

(3) 既に取得している資格で単位認定を受けたい学生への注意

- ・既に取得している資格によって「ビジネス情報演習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定を受けたい場合は、必ず履修登録をしてください。該当する資格の合格証書（原本に限る、原則としてコピーは不可）を最初の授業日に持参し担当教員に提出してください。能力を確認したうえで、単位を認定するかどうかを決定します。
- ・合格証書を高等学校が保管していて手元にない場合は、その旨を担当教員、または学務課（教務）に申し出てください。入学時に高等学校から提出された書類の資格欄の記載内容により、単位認定の可否を判断します。

8-2. 「ビジネス実務演習」の単位認定について

- ・「ビジネス実務演習」ではビジネスの基本やマナーについて学びます。一定の能力が修得できたことを認める「ビジネス能力検定ジョブパス2級」に合格すると単位が認定されます。なお、これらの資格を既に取得していても単位認定の対象にはなりません。

8-3. インターナショナルプログラムズ・国内留学の留学先で修得した単位の認定について

- ・留学先での受講時間数を正確にチェックしたうえで、受講時間に該当する単位数を卒業単位として認定します。ただし、留学前に不合格となった必修科目は、認定の対象外ですので、インターナショナルプログラムズや国内留学から戻った後に再履修する必要があります。専攻科目に関しては、専攻教員の議を経て単位認定することがあります。
- ・半年間の留学の場合、認定できる単位数は原則 22 単位を上限とします。
- ・留学期間中に受講しなければならない「教養演習」、「専門演習」については、ゼミ担当教員と緊密に連絡をとりあい、メール等で課題を提出することで単位認定を行います。

8-4. 「インターンシップ」の単位認定について

- ・インターンシップは、①学外研修前に実施する事前研修、②原則として休業期間に行う学外研修、③学外研修後に実施する事後研修からなります。
- ・インターンシップの学外研修は、富山県内の企業・事業所だけでなく、海外や富山県外の企業・事業所で行われるものもあります。学外研修は原則 5 日間ですが、受入時期や期間は企業・事業所と協議して決定します。研修期間が実働 5 日未満の場合は、通常の事前・事後研修に加えて追加のレポートや研修を課す場合があります。
- ・インターンシップの単位は、事後研修終了後に受入機関の評価等を参考にしながら認定するかどうかを決定し、認定の可否が決定した学期の成績表に認定(P)か不合格(F)かが記載されます。
- ・複数の年次でインターンシップに参加し、いずれも単位が認定された場合は、最初に認定されたインターンシップのみが卒業単位(1 単位)に算入されます。その他のインターンシップは卒業単位には算入できませんが、成績表や就職先等に提出する成績証明書には科目名と成績(認定)が記載されます。

8-5. 「専攻実習Ⅱ」(専攻に関する学外実習)の単位認定について

- ・実習の期間、内容に応じて単位が認められます。(最大 4 単位)

8-6. 帰国子女および外国語能力が高い学生に対する外国語科目の単位認定について

- ・帰国子女や外国語能力が高い学生については、試験等を行いその能力が高いと認められれば外国語科目の単位を認定し、以後の授業への出席を免除することがあります。詳細は学務課(教務)に相談してください。

8-7. 3 年次編入学生の単位認定について

- ・編入学生の単位認定にあたっては、編入学前の教育機関での履修体系を尊重しつつ、3 年次以降で本学部の教育目標に合った専門科目を数多く履修することが可能になるように単位認定を行います。
- ・編入学生については、本学部の 1・2 年次に配当された必修科目と選択科目を合わせて 60 単位まで包括的に認定します。また専門科目については、読み替えが可能な科目があれば、包括的に認定された 60 単位のほかに、2 単位まで認定します。編入学前の教育機関での修得単位数によっては、CAP 制の緩和を認める場合があります。
- ・ただし、本学の所属専攻で学ぶにあたって履修しておく必要がある 1・2 年次の科目は、包括的には認定せず、3・4 年次に履修してもらう場合があります。
- ・編入学生の卒業に必要な単位数等については、別途配付の「3 年次編入学生の単位認定について」を参照してください。

8-8. 他大学・他学部での単位修得

- ・「大学コンソーシアム富山」加盟大学、「富山短期大学」、「富山国際大学 子ども育成学部」で開講している科目の中から興味のある科目を履修して、単位を修得できます。
- ・修得した単位は、12 単位まで教養科目(基盤)に含めることが可能です。
- ・詳細は学務課(教務)で確認してください。

8-9. 連携開設科目の単位修得

- ・「(一社)学修評価・教育開発協議会」の加盟校が開設する科目を履修して、単位を修得できます。
- ・詳細は、「富山国際大学連携開設科目規程」を確認してください。

8-10. 国内留学

- ・札幌国際大学、大阪国際大学、関西国際大学、宮崎国際大学、共愛学園前橋国際大学等に半年～1年間の国内留学が可能です。
- ・申し込み期間がありますので、関心のある学生は、学務課（教務）に連絡してください。

9 演習(ゼミ)担当教員について

現代社会学部では、各年次に必修科目として演習（以下、「ゼミ」という。）が置かれています。1年次には「教養演習Ⅰa・b」、2年次には「教養演習Ⅱa・b」、3年次には「専門演習Ⅰa・b」、4年次には「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」を学生全員が履修しなければなりません。それぞれのゼミは専任教員（以下、「ゼミ担当教員」という。）が担当します。

9-1. ゼミの所属クラスについて

- (1) 「教養演習Ⅰa・b」「教養演習Ⅱa・b」はいくつかのクラスに分かれて開講されます。所属クラスやゼミ担当教員はあらかじめ指定されますので、指定されたクラスのゼミを履修してください。
- (2) 「専門演習Ⅰa・b」「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」は所属専攻の専任教員が担当します。「専門演習Ⅰa・b」と「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」は、2年間同じゼミ担当教員のクラスに所属することになります。
- (3) 「専門演習Ⅰa・b」「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」を担当する教員は、卒業論文のテーマや将来の進路等を可能なかぎり考慮するため、学生が提出した希望届をもとに選考し、所属クラスを決定します。

9-2. ゼミ担当教員の役割について

ゼミ担当教員は、ゼミでの学習や授業の履修に関することだけでなく、留学や資格取得、将来の進路、日常生活等に関する相談や指導も行います。

●「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」における「学ぶための基本姿勢」の指導

- ・「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」のゼミ担当教員は、1・2年次生に大学で学ぶための基本姿勢を指導する「アカデミック・アドバイザー」としての役割を果たします。
- ・教養演習では、大学で学ぶための基本姿勢をすべてのクラスで同じように指導します。具体的には以下のような指導を行います。
 - (a) 読む・書く・話す・聞くといった基礎的コミュニケーション能力、思考力、行動力を伸ばします。
 - (b) 講義の受け方、ノートのとおり方、レポート・発表レジュメの作り方、情報収集の方法、図書館の利用方法、文献の引用方法、プレゼンテーションの方法等を指導します。
 - (c) 新聞記事等の生きた教材をできるだけ活用し、社会への関心を高めます。

●勉学・学習習慣に関する指導（すべての「教養演習」・「専門演習」に共通）

- ・学期のはじめに、履修の方法や時間割の組み立て方について相談や指導を行います。
- ・学生一人ひとりについて、授業の出欠状況や学習状況を把握し、指導や助言を行います。
- ・学生の興味・関心を把握したうえで、学生自身が大学生活における具体的な目標を設定できるよう支援します。例えば、各種検定試験の受検や資格取得講座の受講等を勧めます。
- ・緊急連絡や出欠確認等のために、学生のメールや携帯電話に連絡することがあります。ゼミ担当教員にはメールアドレスや携帯電話の番号を知らせるようにしてください。また、それらに変更があった場合も、ゼミ担当教員に知らせてください。
- ・学生のメールアドレスや携帯電話に連絡がつかない場合、自宅に電話連絡することもあります。また、父母等と直接相談することがあります。

●学生生活全般に関する指導（すべての「教養演習」・「専門演習」に共通）

- ・所属クラスの学生との対話や、学生同士の情報交換の場を多く設けるようにします。
- ・キャリア支援センターと連携し、インターンシップや就職活動に関する支援を行います。

II. 現代社会学部

- ・資格取得や海外・国内留学、専門的な技能の取得を考えている学生には、有効な指導や助言ができる本学の教員を紹介し、また関連する機関等を紹介するなどの支援をします。
- ・ボランティア、部・サークル活動、「夢への架け橋助成事業」等、学生が参加できる活動について情報提供や支援を行います。
- ・心身に不安がある学生には、健康管理センターやカウンセリング室と連携をとりサポートを行います。
- ・大学生としての良識と品位を持つこと、マナーを守ることの大切さを伝えます。交通規則の遵守に関する指導も行います。

II. 現代社会学部

10 現代社会学部教育課程表

(2025年度入学生対象)

区分			科目名	配 当 年 次	単位数				開講 時期	教員 (非常勤)	キー・コンピテンシー			地域 志向 科目	備 考			
					学部 必修	専攻 必修	選択	選択 必修			コミ ユニ	協働 力	課題 解決					
授 業 科 目 の 概 要	教 養 科 目	人間 理解 科目	日本語表現技法	1	2				前	(大谷孝行)	◎		○		2単位必修	教養科目群の中で、 必修科目、必修選 択科目を除く、「人間理解科目 群」、「社会理解 科目群」、「自然 理解科目群」、 「領域を超えて学 ぶ科目群」、 「キャリア・実務 科目群」の中の選 択科目から8単位 以上必要。		
			哲学	1・2				2		前	(辻和希)			○				
			心理学	1・2				2		前	(大平泰子)			○				
		社会 理解 科目	情報科学概論	1	2					後	越智士郎	○	○	◎			2単位必修	
			日本国憲法	1・2				2		前	(彼谷環)	○		◎				
			法学	1・2				2		後	(彼谷環)			○				
			経済の基礎	1・2				2		後	(浅林孝志)	○		◎				
			社会学	1・2				2		前	一井崇			◎				
			ジェンダー論	1・2				2		後	(彼谷環)	◎	◎					
		自然 理 解 科目	生活の科学	1・2				2		前	高橋ゆかり・上坂博亨	○		○				
			数学	1・2				2		前	(春木孝之)	○	○	◎				
		領 域 を 超 え て	健康とスポーツ演習	1・2				2		後	(金子泰子)	◎	◎	○				
			とやま地域学	1・2				2		前集	助重雄久・他			○	◆			
			教養特別講座	1・2・ 3・4				2		後集	(大谷孝行)	◎		○				
		外国 語 科 目	英語Ⅰ	1	2					前	申英姫・B.Pavliy・M.Frank・ (D.Coolidge・小林佳奈子・高松直子)	○		◎		12単位必修	中国語Ⅰ・Ⅱ、韓 国語Ⅰ・Ⅱ、ロシ ア語Ⅰ・Ⅱ、フラ ンス語Ⅰ・Ⅱ、 Intensive EnglishⅠ・Ⅱのい ずれから8単位 必修(英語国際 キャリア専攻は、 Intensive EnglishⅠ・Ⅱ8単位 必修) ※なお、8単位は 同一言語のⅠ、Ⅱ を履修すること ※留学生については、 日本語科目12単位 必修 ※日本語科目は、 日本語を母語とし ない学生を対象と する	
			英語Ⅱ	1	2					後	申英姫・B.Pavliy・M.Frank・ (D.Coolidge・小林佳奈子・高松直子)	○		◎				
			中国語Ⅰ	1				4		前	申英蘭・(古山紗也子)	◎		○				(週2回)
			中国語Ⅱ	1				4		後	申英蘭・(古山紗也子)	◎		○				(週2回)
			韓国語Ⅰ	1				4		前	申英蘭・(金奉吉)	○		○				(週2回)
			韓国語Ⅱ	1				4		後	申英蘭・(金奉吉)	○		○				(週2回)
			ロシア語Ⅰ	1				4		前	B.Pavliy	◎		◎				(週2回)
			ロシア語Ⅱ	1				4		後	B.Pavliy	◎		◎				(週2回)
			フランス語Ⅰ	1				4		前	(大谷孝行)	◎	○					(週2回)
			フランス語Ⅱ	1				4		後	(大谷孝行)	◎	○					(週2回)
			Intensive EnglishⅠ	1				4		前	M.Frank	○		◎				(週2回)
			Intensive EnglishⅡ	1				4		後	M.Frank	○		◎				(週2回)
		日本 語 科 目	初級日本語Ⅰ	1				4		前	(中野香保里・神初奈津子)					(週2回)		
			初級日本語Ⅱ	1				4		後	(神初奈津子・要門美規)	◎	○			(週2回)		
			中級日本語Ⅰ	1				4		前	申英蘭・(苗田敏美)					(週2回)		
			中級日本語Ⅱ	1				4		後	申英蘭・(苗田敏美)	◎		○		(週2回)		
			中級日本語演習Ⅰ	1・2				2		前	(中野香保里)							
			中級日本語演習Ⅱ	1・2				2		後	(神初奈津子)	◎	○					
			上級日本語Ⅰ	2				2		前	(神初奈津子)							
			上級日本語Ⅱ	2				2		後	(要門美規)	◎		○				
			上級日本語演習Ⅰ	2				2		前	(苗田敏美)							
			上級日本語演習Ⅱ	2				2		後	(苗田敏美)	○	○	◎				

教養科目群の中で、必修科目、必修選択科目を除く、「人間理解科目群」、「社会理解科目群」、「自然理解科目群」、「領域を超えて学ぶ科目群」、「キャリア・実務科目群」の中の選択科目から8単位以上必要。

中国語 I・II、韓国語 I・II、ロシア語 I・II、フランス語 I・II、Intensive English I・II のいずれから8単位必修（英語国際キャリア専攻は、Intensive English I・II 8単位必修）
※なお、8単位は同一言語の I、II を履修すること
※留学生については、日本語科目12単位必修
※日本語科目は、日本語を母語としない学生を対象とする

Ⅱ. 現代社会学部

区分			科目名	配 当 年 次	単位数				開 講 時 期	教員 (非常勤)	キー・コンピテンシー			地 域 志 向 科 目	備 考				
					学 部 必 修	専 攻 必 修	選 択	選 択 必 修			コ ミ ュ ニ	協 働 力	課 題 解 決						
授 業 科 目 の 概 要	教 養 科 目	情 報 科 目 基 礎	ビジネス情報演習Ⅰ	1	2				前	(太田由美)	○		◎		4単位必修				
			ビジネス情報演習Ⅱ	1	2				後	(太田由美)	○		◎						
		キ ャ リ ア ・ 実 務 科 目	キャリア・デザイン講座a	1	1				前	〇〇、佐藤綾子	○		◎	◆	6単位必修				
			キャリア・デザイン講座b	1	1				後	〇〇、佐藤綾子	○		○						
			キャリア育成講座	2	2				前	佐々木謙一、佐藤綾子			○	◆					
			キャリア支援講座a	3	1				前	佐藤綾子	○	○	○	◆					
			キャリア支援講座b	3	1				後	佐藤綾子	○	○	○						
			インターンシップ	1・2・ 3・4		1			前・後	〇〇、佐藤綾子					◆				
			ビジネス実務演習	2			2		前	川本聖一・(外部講師)	○								
			会計基礎演習Ⅰ	1			2		前	佐藤綾子			○						
			会計基礎演習Ⅱ	1			2		後	佐藤綾子			○						
		教 養 演 習 科 目	教養演習Ⅰ・a	1	2				前	上坂、越智、川本、佐藤綾、 申英姫、新森、助重	○	○			8単位必修				
			教養演習Ⅰ・b	1	2				後		○	○							
			教養演習Ⅱ・a	2	2				前	石渡、一井、伊藤、佐々木、 申英蘭、豊岡、B.Pavliy、	◎	◎	◎						
			教養演習Ⅱ・b	2	2				後		◎	◎	◎						
		業 科 目 の 概 要	教 養 科 目 (基 盤)	現 代 社 会 基 礎 科 目	現代社会概論	1	2				前	学部長・他	○		○			4単位必修	教養科目（基盤） 科目群の中で、必 修科目を除く科目 群の選択科目から 12単位以上必要。
					消費者論	2			2		後	(藤本孝子)	○		◎				
					社会調査法	2			2		後				◎				
	環境・社会・企業と倫理				3	2				前	高橋ゆかり			○					
	地 域 づ く り 科 目			地域づくり実習	1	2				前	上坂博亨・伊藤葵	◎	◎	○	◆	2単位必修			
				地域社会論	1			2		前	伊藤葵	○	○	○	◆				
				地域政策論	1			2		後	佐々木謙一	○	○	○					
				地域文化論	2			2		前	(城岡朋洋)	○		◎	◆				
				地域課題探求講座	2			2		前	佐々木謙一	○	○	◎	◆				
				国 際 交 流 科 目	国際ボランティア論	1			2		前	(柳沢美登里)	○	○	◎		2単位必修		
	国際交流実習				1・2			2		前集	申英姫・上坂博亨	○	◎						
	英語学				1			2		前	B.Pavliy	◎		◎					
英語音声学	1						2		後	B.Pavliy	◎		○						
TOEICⅠ	1						2		前	(小林佳奈子)	◎		○						
TOEICⅡ	1						2		後	(小林佳奈子)	◎		○						
国際関係論	2				2				前	申英姫	○		◎						
外国語特講Ⅰ	2						2		前	B.Pavliy・申英蘭	◎		○						
外国語特講Ⅱ	2						2		後	B.Pavliy・申英蘭	◎		○						
外国語特講Ⅲ	2					4		前	(高松直子)	◎	○	○		(週2回)					
異文化理解	2					2		前	(金奉吉)			○							
異文化研修	1・2					2		前	申英蘭・B.Pavliy	◎	◎	◎							
インターナショナルプログラムズ (長期)	1・ 2・3					～12								最大12単位					
インターナショナルプログラムズ (短期)	1・ 2・3					○								インターナショナルプログラムズは、期間、 内容に応じて単位認定					
情 報 科 目	データサイエンス基礎Ⅰ		1			2		後	豊岡理人			◎							
	データサイエンス基礎Ⅱ		2			2		前	越智士郎			◎							
	人工知能とその活用		2			2		後	新森昭宏	○	○	◎							
	プログラミング基礎		2			2		前	越智士郎			◎							

同表に定めるほか、第19条の2および第24条の2で規定する連携開設科目の履修及び修得単位等の詳細は別に定める。

Ⅱ. 現代社会学部

区分	科目名	配 当 年 次	単位数				開講 時期	教員 (非常勤)	キー・コンピテンシー			地域 志向 科目	備 考
			学部 必修	専攻 必修	選択	選択 必修			コ ミ ュ ニ	協 働 力	課 題 解決		
授 業 科 目 の 概 要	観光基礎	観光概論	1	2			後	専攻長・専攻教員	○		○		62単位以上 ・ 専攻科目 44単位以上及び他専攻概論 4単位以上 ・ 当該専攻学生 必修科目22単位 選択科目22単位 ・ 環境デザイン概論2単位、 経営情報概論2単位及び国際 キャリア概論2単位から 2科目4単位必修（3年次編 入学生はこの限りではない） ・ 所属専攻の専攻科目ま たは所属専攻以外の専攻 科目から14単位以上履修 する。（所属専攻以外の 実習、専門演習は履修で きない）
		観光調査・分析法	2		2		後	助重雄久	○	○	◎		
		観光英語	3		2		前	(D.Coolidge)	○		◎		
		観光中国語	3		2		後	申英蘭	◎		○		
	観光資源	富山県の文化・自然と観光	2	2			前	佐藤悦夫	○		○	◆	
		観光資源論	2		2		後	大谷友男	○		○		
		世界遺産論	3		2		前	佐藤悦夫	○		○		
		民族・文化と観光	3		2		後	佐藤悦夫	○		○		
	観光事業	観光政策の歴史	2	2			後	佐藤悦夫	○		○		
		観光ビジネス論	2		2		前	大谷友男	○		◎		
		観光メディア論	2		2		後	大谷友男	○		◎	◆	
		観光経営論	3		2		前	大谷友男	○		◎		
		観光企画論	3		2		後	大谷友男	○	○	◎		
		観光サービス論	2		2		後	一井崇	○		◎		
		旅行業論	2		2		前	(米田昌)	○		○		
		観光コミュニケーション論	3		2		後	一井崇	◎		○		
		ホテル業論	3		2		前	一井崇	○	○			
		観光と交通	3		2		後	(青木亮)	○		◎		
	地域観光	観光地理	2	2			前	助重雄久		◎	○		
		国際観光論	2		2		前	一井崇	○		○		
		農山漁村観光論	3		2		後	助重雄久			◎		
		都市観光論	3		2		前	助重雄久			◎		
	総合	観光実習Ⅰ	3	2			前	専攻長・専攻教員	○	○	◎	◆	観光実習Ⅱは、実習期間、内容に応じて単位認定。最大4単位。
		観光実習Ⅱ	2・3・4			○	前・後	助重雄久				◆	
		観光実習Ⅲ	2・3・4		2		前・後	一井崇					
		専門演習Ⅰ・a	3	2			前	専攻教員				◆	
		専門演習Ⅰ・b	3	2			後	専攻教員				◆	
		専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	4	8			通年	専攻教員				◆	

Ⅱ. 現代社会学部

区分	科目名	配 当 年 次	単位数				開講 時期	教員 (非常勤)	キー・コンピテンシー			地域 志向 科目	備 考
			学部 必修	専攻 必修	選択	選択 必修			コ ミ ュニ	協 働 力	課 題 解決		
授 業 科 目 の 概 要	環境基礎	環境デザイン概論	1	2			後	専攻長・専攻教員			○		62単位以上
		環境基礎演習	2		2		後	高橋ゆかり・(大谷孝行)		◎	○		
	生活環境	生活環境論	2	2			前	高橋ゆかり			○		・ 専攻科目 44単位以上及び他専攻概論 4単位以上 ・ 当該専攻学生 必修科目 22単位 選択科目 22単位 ・ 観光概論2単位、経営情報概論2単位及び国際キャリア概論2単位から2科目4単位必修（3年次編入学生はこの限りではない） ・ 所属専攻の専攻科目または所属専攻以外の専攻科目から14単位以上履修する。（所属専攻以外の実習、専門演習は履修できない）
		生活と水環境	2		2		後	高橋ゆかり	○		◎		
		生活と水環境演習	3		2		前	高橋ゆかり		○	◎	◆	
		環境リスク評価論	3		2		後	高橋ゆかり・(五箇公一)	○		◎		
		住環境デザインⅠ	2		2		前	川本聖一	○		○		
		住環境デザインⅡ	2		2		後	川本聖一	○		○		
		住環境デザイン演習	3		2		前	川本聖一	◎	○	○		
	地球・自然環境	地球環境論(自然環境)	2	2			前	上坂博亨			◎		
		生態学	2		2		前				○		
		資源・エネルギー論	2		2		後	上坂博亨			◎		
		バイオマスと環境	3		2		前	(和田直也)			◎		
		エネルギー論演習	3		2		前	上坂博亨		○	◎	◆	
	社会環境	環境社会学	2	2			前	(田開寛太郎)		○	◎		
		持続可能型社会論(資源循環)	2		2		後	(加賀谷重浩)		○	◎		
		環境経済学	2		2		後	佐々木謙一			◎		
		環境政策論	3		2		後	上坂博亨		○	◎	◆	
		環境マネジメント	3		2		後	(藤田香)	○		◎		
		都市空間デザイン	3		2		後	川本聖一	○		○		
		環境共生論	3		2		後				◎		
	総合	環境デザイン特別講義	3		2		後	上坂博亨			◎	◆	環境デザイン実習Ⅱは、実習期間・内容に応じて単位認定。最大4単位。
		環境デザイン実習Ⅰ	3	2			前	専攻長・専攻教員	○	◎	○	◆	
		環境デザイン実習Ⅱ	2・3・4		○		前・後	高橋ゆかり				◆	
		環境デザイン実習Ⅲ	2・3・4		2		前・後	川本聖一					
		専門演習Ⅰ・a	3	2			前	専攻教員				◆	
		専門演習Ⅰ・b	3	2			後	専攻教員				◆	
		専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	4	8			通年	専攻教員				◆	

Ⅱ. 現代社会学部

区分	科目名	配 当 年 次	単位数				開講 時期	教員 (非常勤)	キー・コンピテンシー			地域 志向 科目	備 考
			学部 必修	専攻 必修	選択	選択 必修			コミュニ ティ	協働 力	課題 解決		
授 業 科 目 の 概 要	基情報 経営	経営情報概論	1	2			後	専攻長・専攻教員			○		62単位以上 ・ 専攻科目 44単位以上 及び他専攻概論 4単位以上 ・ 当該専攻学生 必修科目22単位 選択科目22単位 ・ 観光概論2単位、環境 デザイン概論2単位及び 国際キャリア概論2単位 から2科目4単位必修（3 年次編入学生はこの限り ではない） ・ 所属専攻の専攻科目ま たは所属専攻以外の専攻 科目から14単位以上履修 する。（所属専攻以外の 実習、専門演習は履修で きない）
	経営 環境	経済学	2		2		後	佐々木謙一			◎		
		中小企業論	2		2		前	(高橋哲郎)	○	○	○	◆	
		金融論	3		2		前	(浅林孝志)			○		
		ベンチャー・ビジネス論	3		2		後	伊藤葵	○	◎	○	◆	
	経営	経営戦略論	2	2			前	伊藤葵	○	○	○		
		経営組織論	2		2		後	伊藤葵	○	○	○		
		マーケティング論	2		2		後				◎		
		経営管理講座	3		2		後	伊藤葵					
		マーケティングリサーチ	3		2		前	(梁庭昌)			◎		
		経営分析論	2	2			後	佐藤綾子			○		
	会計	企業会計	3		2		前	佐藤綾子			○		
		管理会計	3		2		後	佐藤綾子			○		
		情報システム論	2	2			前	新森昭宏			◎		
	情報 システム	情報マネジメント論	2		2		前	新森昭宏			◎		
		情報メディア論	3		2		後	越智士郎			◎		
		情報ネットワーク論	3		2		前	豊岡理人		○	◎		
		情報技術論	2		2		後	豊岡理人	○	○	◎		
		情報セキュリティマネジメント	3		2		前	豊岡理人					
		情報システム開発技術	3		2		後	新森昭宏					
		デジタルトランスフォーメーション 特別講義	2		2		前	豊岡理人		○	◎		
		情報社会と情報倫理	2		2		後	新森昭宏	○		◎		
	デー タサイ エ	データサイエンス実践演習Ⅰ	2		2		後	豊岡理人			◎		
		データサイエンス実践演習Ⅱ	3		2		前	越智士郎			◎		
		経営情報資格演習	2		2		前	佐藤綾子・(外部講師)			○		
	総合	経営情報実習Ⅰ	3	2			前	専攻長・専攻教員	○	○	○	◆	経営情報実習Ⅱは、実習期間・内容に応じて単位 認定。最大4単位。
		経営情報実習Ⅱ	2・3・ 4		○		前・後	伊藤葵・専攻教員				◆	
		経営情報実習Ⅲ	2・3・ 4		2		前・後	専攻長・専攻教員					
		専門演習Ⅰ・a	3	2			前	専攻教員				◆	
		専門演習Ⅰ・b	3	2			後	専攻教員				◆	
		専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	4	8			通年	専攻教員				◆	

Ⅱ. 現代社会学部

区分	科目名	配 当 年 次	単位数				開講 時期	教員 (非常勤)	キー・コンピテンシー			地域 志向 科目	備 考
			学部 必修	専攻 必修	選択	選択 必修			コ ミ ュ ニ	協 働 力	課 題 解決		
授 業 科 目 の 概 要	基英・国際 英語基礎	国際キャリア概論	1	2			後	専攻長・専攻教員	○		◎		62単位以上 ・専攻科目 44単位以上及び他専攻概論 4単位以上 ・当該専攻学生 必修科目34単位 選択科目10単位 ・観光概論2単位、環境デザイン概論2単位及び経営情報概論2単位から2科目4単位必修（3年次編入学生はこの限りではない） ・所属専攻の専攻科目または所属専攻以外の専攻科目から14単位以上履修する。（所属専攻以外の実習、専門演習は履修できない）
	キャリア 英語基礎	Creative Writing	1		2		後	M.Frank	◎	○	○		
		Advanced Reading I	2		2		前	M.Frank	○		◎		
		Academic Writing I	2	2			前	M.Frank	◎	○	◎		
		英語文学	3		2		後	M.Frank	◎	○	◎		
	キャリア 英語展開	Advanced Reading II	3		2		後	M.Frank	○		◎		
		Academic Writing II	3	2			前	M.Frank	◎	○	◎		
		Presentation and Debate	3		2		前	B.Pavliy	◎	○	◎		
		ビジネス英語	3		2		前	申英姫	◎		○		
		TOEICⅢ	2		2		前	(小林佳奈子)	◎		○		
		TOEICⅣ	3		2		後	(小林佳奈子)	◎		○		
	国際 理解	国際関係特論	3		2		後	申英姫	○		◎		
		多文化共生論	3	2			前	石渡華奈	◎	○	◎		
		国際ジャーナル	2		2		前	申英姫	○		◎		
		グローバルスタディーズⅠ	2	4			後	専攻長・専攻教員	◎	○	◎		
		グローバルスタディーズⅡ	2	4			後	専攻長・専攻教員	◎	○	◎		
		グローバルスタディーズⅢ	2	4			後	専攻長・専攻教員	◎	○	◎		
		グローバルスタディーズⅣ	2		4		後	専攻長・専攻教員	◎	○	◎		
		グローバルスタディーズⅤ	2		4		後	専攻長・専攻教員	◎	○	◎		
	国際 キャリア	国際キャリア特別講義	3	2			後	申英姫	○		○		
		国際ビジネス	3		2		後	石渡華奈		○	◎		
		国際交渉	3		2		前	石渡華奈	○		◎		
	総合	英語国際キャリア実習	2・3・4		○		前・後	専攻教員					英語国際キャリア実習は、実習期間・内容に応じて単位認定。最大4単位。
		専門演習Ⅰ・a	3	2			前	専攻教員					
		専門演習Ⅰ・b	3	2			後	専攻教員					
		専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	4	8			通年	専攻教員					